

— 上智大学 —

2月7日 法・経済・外国語(英)学部 世界史

解答

1

設問1: (ア) b (イ) c (ウ) a (エ) e (オ) e

(カ) e (キ) a (ク) c (ケ) c (コ) c

(サ) e (シ) a (ス) b (セ) d (ソ) b

設問2: 問1 c 問2 e 問3 c 問4 b 問5 d

2

問1: (1) b (2) d (3) c (4) a (5) a

(6) d (7) b (8) c (9) d (10) b

問2: (1) c (2) d (3) a (4) b (5) d

(6) d (7) a

問3: (1) b (2) c (3) a (4) d

3

問1: c

問2: (1) (ア) b (イ) c (ウ) b (エ) a (オ) c (2) d

問3: (1) a (2) d

問4: (1) d (2) c (3) c (4) b

問5: c 問6: b 問7: c

4

設問1: 問1 c 問2 b 問3 c 問4 a 問5 b 問6 b

設問2: 問1 a 問2 e 問3 a 問4 d 問5 c

設問3: 問1 c 問2 d 問3 e 問4 a 問5 a 問6 d

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

解説

1

設問 2

- 問 1 スキタイはBC7(6)C～BC3Cにカフカス・黒海北方の草原地帯にいたイラン系の騎馬遊牧民。独特の動物文様を持つ装飾品、金属工芸品、馬具、武器などを特徴とするスキタイ文化を持つ。
- 問 2 フン人は匈奴の一部(北匈奴?)を含むと考えられている騎馬遊牧民で、4～5Cにかけて中央アジアの草原地帯からヨーロッパへの侵入を繰り返した。具体的には、4C後半にはドン川を越えて西進し、東ゴート人の大半を征服・連行し、さらに西ゴート人を圧迫して、ゲルマン人の大移動を誘発した。アッティラ指揮の下で5C前半にパンノニアで大帝国を建設し、パリ近郊に侵入したが、452年のカタラウヌムの戦いで西ローマ・西ゴート・フランク連合軍に敗れた。452年にローマにも侵入したが、教皇レオ1世の説教を受け、撤退。アッティラの死後、帝国は瓦解した。

2

問 1

- (2) 連合国の米英仏ソは、日中戦争で日本の侵略に抵抗する中華民国(蒋介石率いる国民政府[中国国民党の政府])を支援するために、援蒋ルートを使って物資の輸送を行った。英領香港からのルート、ソ連からのルート、英領ビルマからのルートもあるが、受験では仏領インドシナ北部からのルートが重要。仏領インドシナ北部から雲南省や四川省の重慶へ支援物資を輸送した。
- (3) 1936年に日独防共協定、1937年にイタリアが加わり(日独伊)三国防共協定、1940年に日独伊三国(軍事)同盟へと発展した。
- (4) 日ソ中立条約は、日本は北方の安全を確保し南方進出に備えるため、ソ連は独・日との両面戦争を避けるために、1941年に締結した条約。日本は枢軸国、ソ連は連合国だが、互いに利害が一致し、相互不可侵・中立維持を約束した。期限は5年間で、1946年まで有効だったが、後にソ連はこれを破り、1945年に対日参戦を行う。
- (5) リード文にある通り、ハワイ真珠湾奇襲は1941年12月8日だが、aは1941年12月～42年1月、bは1942年2月、cは1942年、dは1942年3～5月。月まで覚えていなくても、1941年と1942年の区別はつけておきたい。
- (6～7)「1944年」「陥落」とある。1944年7月、米軍がサイパン島に上陸して激戦が続き、3万の日本守備軍はほぼ全滅し(サイパン島陥落)、敗戦の責任を取って東条英機内閣は総辞職した。以後、サイパンは米軍の日本本土爆撃の基地となった。

問 2

- (1) ノモンハン事件は、1939年満州国とモンゴル人民共和国の国境付近で起こった日ソ両軍の武力衝突事件。日本軍はソ連・モンゴル軍の機械化部隊を侮り、大敗した。
- (2) dが正文。aは「全土」ではなく、北半分。bは「ド=ゴール」ではなく、ペタン。cは「全土」ではなく、南半分。さらに、「ダラディエ」ではなく、ペタン。

- (3) a が正文。実教出版の教科書「世界史B新訂版」の p.367 に「アメリカは～日本に対してくず鉄・石油の輸出禁止などの経済制裁を実施した」と明記されている。くず鉄まで覚えていた受験生は皆無だろうが、石油の対日禁輸を知っていれば十分に正解は得られる。
- (4) ハル＝ノートとは、1941年11月、日米交渉末期にアメリカのフランクリン＝ローズヴェルトの国务長官ハルが提示した対日案。内容は、日本の中国・仏領インドシナからの全面撤退、汪兆銘政権の否認など。この文書により日米交渉は事実上決裂し、東条英機内閣が交渉を打ち切った。よって、a、c、d は全て正文、b が誤文ということになる。
- (5) d は「イギリス」ではなく、オランダ。
- (6) 難問だが、a、b、c は実教出版の教科書「世界史B新訂版」の p.369 にそのまま明記されており、正文である。余談だが、b の「タイ＝ビルマ鉄道建設」に至っては写真まで掲載されている。よって、残った d が誤文となり、「同化が強制された」が誤り。実教出版の教科書「世界史B新訂版」の p.369 に「朝鮮では日本の家制度を強要する『創始改名』が、台湾でも類似した同化政策がおしすすめられた。注①ただし、『創始改名』が日本式の家号である『氏』の制度を強制的に導入するものであったのに対し、台湾に導入された『改姓名』は日本語の常用度や『皇民化』の度合いによって、日本式の氏名を名をのることを『許す』ことで、同化をうながすというものであった」と明記されている。つまり、朝鮮では強制、台湾では許可・促進である。
- (7) a が正文、b は「日本軍は東南アジアから立ち去れ」ではなく、「イギリスはインドから立ち去れ」である。1942年の「インドを立ち去れ(クイット＝インディア)運動」のこと。c の「抗日民族統一戦線」は「インドネシア」ではなく、ベトナムのベトナム独立同盟(ベトミン)などが掲げた。インドネシアのスカルノは日本軍に協力的だった。d の「国際義勇軍」はスペイン内戦のときに結成された。

問3

- (2) c は「イスラーム」ではなく、ヒンドゥー。
- (3) a は「先住民のピュー人」ではなく、ビルマ人。また、ビルマの先住民はモン人である。
- (4) d が正文、a は「イスラーム」ではなく、上座部仏教。b は「を滅ぼした」ではなく、「に衰退させられた」とすべき。c は「ラーマ5世(チュラロンコン)」ではなく、ラーマ4世(モンクット)。

3

問1 b(829年)→ d(エグバートの孫、在位 871～899年)→ c(1016年、または 1028年)→ a(1066年)。

問2 (2)d は「できなかった」が誤り。中世の農奴は、古代の奴隷とは異なり、家族・家畜・農具・住居の所有は認められた。

問3

- (1) a が正文。b は「イタリアでは自治権を獲得することは困難だった」が誤りで、北部・中部イタリアでも自治権を獲得した自治都市は出現し、コムーネ(都市共和国)と呼ばれた。c も「新たな住民が流入することはなかった」が誤りで、実教出版の教科書「世界史B新訂版」の p.142 に「都市には商人や手工業者が移住して人口が増加し」とある。また、ドイツでは、農奴が荘園から都市に逃れて1年と1日住めば自由な身分になるとされていた(「都市の空気は自由にする」)。以上から、新たな

住民が流入することはあったと判断できる。dは「誰でも自由な商工業活動ができた」が誤りで、中世都市にはギルドが存在し、自由競争を禁じて、商品の品質・規格・価格などを規約によって細かく統制し、非組合員の商業活動を禁止していた。

- (2) 「尖頭アーチ」「ステンドグラス」からゴシック様式なので、dが正解。aはロマネスク様式、bはビザンツ様式、cはバシリカ式からルネサンス様式へ変遷。

問4

- (1) dは「南イタリア」ではなく、北イタリア。
 (2) cが正文。aは「軍事政権であるブワイフ朝」ではなく、アイユーブ朝。bは「シーア派」ではなく、スンナ派。dは「第2回」ではなく、第3回。
 (3) cは「最新の軍事技術を駆使して」が誤り。フリードリヒ2世は外交交渉でイェルサレムを奪回した。
 (4) 「13世紀後半」とあるが、モンゴル帝国がユーラシア大陸を席捲した時代であり、多くの教科書に最大版図の地図が掲載されている。13世紀後半に存在していたのは、bの組み合わせしかない。

問5 cが正文。aは「グレゴリウス1世」ではなく、レオ1世。bは「ボニファティウス8世」ではなく、カリクストゥス2世。dは「グレゴリウス7世」ではなく、グレゴリウス11世。

問6 bが正文。aは「きわめて閉鎖的な組織で大きく成長することはなかった」が誤りで、ベネディクト修道会は西欧の修道院の模範とされ、その戒律に従う数多くの修道院をベネディクト派と呼ぶ。cも「農村」が誤りで、フランチェスコ修道会は都市部での信者の喜捨で運営される托鉢修道会。dは「異端審問の制度に強く反対」が誤りで、異端審問に貢献した。

問7 cの「セルビア人」は、カトリックではなく、ギリシア正教。

4

設問1

問2 ノルマン人のレイフ＝エリクソンは1000年頃、コロンブスよりも早く北アメリカ(カナダのニューファンドランド)に到達していたとされる。

問3 サン＝サルバドル島は現バハマ諸島上の島で、バハマ国が領有している。なお、サン＝サルバドルとは「聖なる救世主」の意。最近では「サンサルバドル島」という表記が一般的である。

問4 aの「チャビン文化」は、メソアメリカ文明ではなく、アンデス文明に分類される。

問5 インカ帝国は、コロンビア南部・エクアドルからチリ・アルゼンチンまでを最大版図とした。また、インカ人が使ったケチュア語が現在でもペルー・ボリビアの公用語であることから、ボリビアも版図に入れていたと考えられる。よって、bの「ベネズエラ」が正解。

問6 bの「コーヒー」は、エチオピア、イエメンのアデンが原産地。

設問2

問1 「第1回十字軍と同じ頃」「イベリア半島」とあるので、1096年頃にイベリア半島にあった王朝を選ぶ。まず、dはイベリア半島の王朝ではないので、除外できる。aは11世紀で正解。bは12世紀、cは757～1031年、eは1232～1492年。

- 問3 どれもポルトガルが進出した都市なので厄介だが、東京書籍の教科書「世界史B」のp.205に「ゴア、マラッカ、マカオ、平戸(のちに長崎)を4大拠点としたポルトガル」と明記されている。よって、aの「カリカット」が正解。
- 問4 順番に並べると、F(1513年)→ G(1519年)→ D(1521年)→ H(1522年)→ E(1533年)なので、dが正解。
- 問5 cは「軍功に対する恩賞として土地の所有権」が誤りで、これは封建制の説明ととれる。正しくは「先住民の保護とキリスト教化を条件に先住民を使役し統治する権利」とすべき。
- 設問3
- 問2 dは「男女同権」が誤り。なお、a、b、cも差が付きやすい重要な情報なので、頭に入れておきたい。
- 問4 aは「テルミドール9日のクーデタ」ではなく、**ブリュメール18日のクーデタ**。
- 問5 aは「話し合いの上、糾合」が誤り。糾合とは、一つに集まること。シモン＝ポリバルは、1822年にサン＝マルティンと会談したが、一部で意見が一致せず、サン＝マルティンへの協力を拒んだ。よって、「話し合いの上、糾合」とは言えない。非常に細かいが、山川出版社の「世界史用語集」の「サン＝マルティン」の項目で、説明文中にさりげなく書かれている。
- 問6 dは「1824年」ではなく、**1889年**。ブラジルはポルトガル皇太子の**ドン＝ペドロ**を擁立し、**1822年**にポルトガルから独立して**帝政**となった(ブラジル帝国)が、**1889年**に連邦共和政に移行した。

【講評】

一定数の難問が散見されるが、他は全体的にスラスラと解ける問題が大部分を占めている。難易度は例年並み。

②の間2(3)と(6)が非常に細かい。どちらも実教出版の教科書「世界史B新訂版」に準拠しており、山川出版社の「詳説世界史B」「詳説世界史研究」「世界史用語集」では対応できない。また、(7)も熟考を要求される。

③の間3(1)や問6も正答率は低いだろう。

④の設問1の間5は定番だが、正答率は低いだろう。設問2の間3は東京書籍の教科書「世界史B」に準拠しているが、山川出版社の「詳説世界史B」「詳説世界史研究」「世界史用語集」では対応できない。また、設問3の間2は実力差がはっきりと出る。問5も非常に細かく、山川出版社の「世界史用語集」の説明文まで把握していないと根拠を持って解答するのは難しい。問6も年号に関わるので、意外に正答率は低いだろう。

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！